

創価大学  
国際仏教学高等研究所

**The International Research Institute for Advanced Buddhology  
Soka University**

〒192-8577 東京都八王子市丹木町 1-236 1-236 Tangi, Hachioji, Tokyo, 192-8577, JAPAN  
Office Phone: (+81-42)691-2695 Fax: (+81-42)691-4814  
E-mail: [iriab@soka.ac.jp](mailto:iriab@soka.ac.jp) URL: <http://iriab.soka.ac.jp/>

平成29年2月21日

御案内

**第77回 国際仏教学高等研究所・仏教学懇話会**

(平成29年3月9日)

**宮治昭博士**

(名古屋大学名誉教授・龍谷大学特任教授)

「弥勒信仰とその美術—インド・ガンダーラから中国へ—」

拝啓 梅香の候、皆様にはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、この度、名古屋大学名誉教授・龍谷大学特任教授、宮治昭博士を講師にお迎えして懇話会を開催することとなりました。宮治先生は、名古屋大学で学ばれた後、弘前大学、名古屋大学で長く教鞭を執られました。その後、静岡県立美術館館長をされ、さらに龍谷大学教授を経て、現在同大学特任教授であります。インド・中央アジアの仏教美術史の分野で、日本を代表する学者です。数多くの専門書と論文を出されており、そのご業績に対して中日文化賞、中村元東方学術賞を受賞されています。

今回は「弥勒信仰とその美術—インド・ガンダーラから中国へ—」というテーマで、話をして頂きます。ご講演の梗概は次の通りです。

弥勒信仰に関わる美術（図像・造像）はクシャーーン朝時代のガンダーラで始まり、それを起点にしてインド内部（中インド・南インド・西インド）で弥勒菩薩の造像が見られる。それらの多くは過去七仏とセットになって表されたり、仏三尊像（仏陀と両脇侍菩薩）の脇侍菩薩の一体として表されることがほとんどで、パーラ朝では八大



菩薩の一体としても表される。すなわち、インドでの弥勒信仰の美術は菩薩像として展開する。

一般に「弥勒信仰の美術」というと、弥勒下生経・上生経を典拠とする美術を指すが、それが明確化するのには中国唐代であり、少なくとも現存作例から見る限り、インドでは下生経・上生経に基づく美術は見られない。実は弥勒経典に限らず、1～5世紀頃に成立、生成した初期大乘経典に基づく図像や造形、例えば『法華経』『維摩経』『無量寿経』『華嚴経』などは、後に中国や日本で美術とも深く関わって発展する。インドでの大乘仏教美術の変遷は、東アジアでの展開とその様相を大きく異にする。

未来仏としての弥勒信仰は部派仏教にも大乘仏教にも受け入れられており、しかも1～5世紀の大乘仏教の生成期にその造形が認められる点で、大乘仏教美術のいわば先導的な役割を果たしたと考えられる。

ご興味のある方はどなたでも自由にご聴講下さい。ご参加頂ける方は、予め本研究所までご一報下されれば幸いに存じます。

日時：平成29年3月9日（木） 午後3時～午後5時

場所：創価大学 中央教育棟 西棟12階 第8会議室

## 宮治博士主要学術著作

『インド美術史』吉川弘文館、1981年、第5刷：1997年、239頁

金香淑・高延銀訳、韓国語版『インド美術史』韓国ソウル、Dahal Media 出版、2006年

(増補復刊) 歴史文化セレクション『インド美術史』吉川弘文館、2009年、248頁

『アジャンター窟院』（世界の聖域7、序文・総論：柳宗玄）講談社、1981年、151頁

『ガンダーラ』（写真 並河萬里）本文解説担当、岩波書店、1984年、128頁

『正倉院』（日本の古寺美術 別巻）保育社、1986年、230頁

『涅槃と弥勒の図像学—インドから中央アジアへ』吉川弘文館、1992年、692頁

李萍・張清涛訳『涅槃与弥勒的図像学—从印度到中亞』敦煌研究院（仏教芸術与敦煌学名著訳叢）北京・文物出版社、2009年10月、608頁

『ガンダーラ 仏の不思議』講談社選書メチエ、1996年、326頁

李萍訳『犍陀羅美術尋跡』中国北京・人民美術出版社、2006年

『仏教美術のイコノロジー—インドから日本まで』吉川弘文館、1999年、270頁

『バーミヤーン、遥かなり—失われた仏教美術の世界』NHKブックス、2002年、273頁

『仏像学入門—ほとけたちのルーツを探る』春秋社、2004年、338頁

(増補) 同、春秋社、2013年、361頁

賀小萍訳『吐峪沟石窟壁画与禅観』上海古籍出版社、2009年、212頁

『インド仏教美術史論』中央公論美術出版、2010年、701頁

*Collected Essays on the Art of Gandhāra and Bāmiyān*, Ryukoku University, 2012, 260 ps.

『仏像を読み解く—シルクロードの仏教美術』春秋社、2016年、296頁

その他、編著・共著など多数。